

色々な 1 年生

この春、5 年ぶりに水産研究所への異動となり、充実した毎日を送っている。私事ではあるが、最近、思うことを綴りたい。

当所では多くの見学者を受け入れており、今年度も既に千人もの方が来所された。11 月上旬には岡山市立富山中学校の生徒さん 3 名を受け入れ、アユ種苗の飼育や漁獲物の測定、解剖等に取り組んでもらった。「職場体験 1 年生」には、ぎこちない様子も見られたが、責任を持って仕事に取り組んでもらうことができた。

クリスマスソングを耳にする機会も増え、イルミネーションが街を彩る。これから、岡山の基幹漁業であるノリ養殖が最盛期を迎える。海況やノリ網の状態は毎年異なり、その状況に合わせた養殖管理が必要となることから、ベテランのノリ生産者でも「毎年 1 年生」という言葉をよく口にする。今年は、近年になく海に栄養分が多く、今漁期こそ豊作となることを願っている。

現在、私はアユの種苗生産を担当し、その最盛期を迎えている。過去にも担当したことがあり、一通りの飼育技術は理解しているつもりであったが、先だって魚の突然の不調に見舞われた。冷や汗をかき、動悸がし、夜も眠れなかった。「いつまでたっても 1 年生」と、これからも精進していきたい。

今日も一日の作業を終えた。今は、アユも元気を取り戻し、自動給餌機から餌が出るとまるで雨でも降っているかのように水面が踊る。これは魚が元気な証拠であり、私の一番好きな光景である。2 月上旬の出荷まで先はまだ長いが、この雨だけは止ませぬように励みたい。(資源増殖室 弘奥)



アユ種苗の餌にするプランクトンの殺菌処理



生産中のアユ種苗